

青少年育成センターだより

第41号 平成30年5月



たんぽぽや 日はいつまでも 大空に (中村汀女)

「春」「五月」という言葉を聞くと気持ちがうきうきしてくるのは私だけではないでしょう。空には、雀が飛びまわり、道端には、たんぽぽが咲いています。5月の空気を胸いっぱい吸ってみてください。きっと生きていくことの喜びが感じられることでしょう。

学校が始まり1ヶ月が過ぎ、子どもたちも新しい環境に慣れた頃でしょうか。登校している姿は、元気いっばいでこちらまで元気になれます。

叱ることについて

「友情」～平尾誠二と山中伸弥「最後の一年」～ という書籍を読みました。



平尾誠二さんと山中伸弥さんについては、皆さんも十分ご存知のことでしょうが簡単に紹介しましょう。平尾誠二さんは、ラグビーの選手として高校・大学と全国大会優勝され、史上最年少で日本代表選手にも選ばれました。また、監督としても神戸製鋼を率い日本選手権7連覇を達成されており、選手としても監督としても素晴らしい成績を残された方です。残念なことに病気により、享年53歳で亡くなりました。山中伸弥さんは、2012年にiPS細胞の発見により、ノーベル生理学・医学賞を受賞され、現在はiPS細胞研究所の所長として多くの研究者を育てておられる方です。また、防府マラソンに出場されたこともあり、防府にも馴染みがある方です。「友情」は、お2人がラグビーをとおしてつながり、深い親交を結んでおられた記録です。

書物に、「人を叱る時の四つの心得」が記載してあったので紹介します。

- 1 プレーは叱っても人格は責めない
- 2 あとで必ずフォローする
- 3 他人と比較しない
- 4 長時間叱らない

いかがでしょうか？この言葉は、平尾さんが選手を育てる上で大切だと考えられ、実践されていたことですが、子育ても同じことが言えるのではないのでしょうか。

叱り方って本当に難しいものです。親として、つい感情的になって叱ってしまい、後から「叱らなければよかった」と反省する方も多いのではないのでしょうか。私もこのような思いをこれまで何度もしてきました。

叱ることと褒めること（厳しさと優しさ）は、子どもを育てる上でとても大切なことです。子どもは褒めるだけでは強い子どもには育ちません。また叱るばかりでは、自信を持った子どもには育ちません。上手に叱り、上手に褒めることが大切なのでしょう。この平尾さんの叱り方を噛みしめてみたいものです。

問合せ先：防府市教育委員会生涯学習課 青少年育成センター（23-3013）